

**第1回エコエリアやまがた推進コンクール
優秀賞（エコエリアやまがた推進協議会長賞）**
※掲載している情報は平成18年度時点のものです。

名 称	JA 新庄もがみ南部営農センターニラ部会
所在地	舟形町

1.当生産部会の概要

舟形町は、最上郡の南端に位置し、東西に長い地形で総面積約 11,900ha のうち7割を山林が占め、鮎で有名な清流小国川と松橋川沿いに耕地が広がる農山村地域で、町の農業産出額は約 21 億円、このうち約 75%を米が占めている。

ニラ部会は、平成 17 年度実績で参加農家 25 戸、ニラ作付面積 558.5a、販売量 183.9t、販売金額約 56,000 千円の組織であるが、その取り組みは、耕蓄連携による土づくり（資源循環型農業）活動を行った福寿野地区の取り組みに端を発するものであるが、現在、高品質で安心・安全なニラの生産とその有利販売活動は確実にエリアが拡大され、既に本部会そのものの代名詞となっている。

2.取組の背景・経過等

①取組の背景

当町の農業は、最上管内の他市町村と同様、水稻に大きく依存した経営がこれまで行われ、農業粗生産額に占める米の割合は昭和 60 年当時で約 85%にも達していた。

その後、米の生産調整が一層強化されたことを受け、農業所得の維持確保を図るため、アスパラガスやミョウガ等の園芸作物への取り組みが行われたが、産地として定着するには至らなかった。

しかし、福寿野集落を中心に稲作依存から園芸作物への転換を図ろうと、比較的価格が安定しているニラに着目し、昭和 60 年頃から数名がニラの試験栽培を開始した。

特別な施設や機械装備を必要としないことから、他の農家や他の地域にも徐々に普及し、栽培面積も転作田を中心に増えてきたことも相まって、同年、互いの生産技術と品質の向上を図るため旧福寿野ニラ生産組合を設立し、更に、平成 16 年の JA 合併により現在の名称になった。

【エコファーマー認定式】

②発展の経過

部会の結成によりニラ栽培農家同士の仲間意識が強まり、また、はかま取り機や袋詰め機、管理機などの導入により省力化も進んだことから、平成 10 年代に入ると栽培面積は大幅に増加した。

平成 14 年に福寿野地区を受益地とした「エコエリア推進事業」を導入し、全員がエコファーマーの認定を受けたことをきっかけに、ニラ部会全員へ波及し、環境に配慮した生産方式への統一と有利な販売戦略の展開がスタートした。なお、平成 17 年度の当組合におけるニラ生産は、販売額で約 56,000 千円に達し、町内全体の約 9 割、最上地域全体の 1 割を占めており、全国レベルに成長した「最上ニラ産地」の主要な拠点集団となっている。



3. 農業経営・技術と取組姿勢

①環境に配慮した農業技術の実践と工夫

品種は、「たいりょう」と「パワフルグリーンベルト」を導入して、品種特性を活かし、時期別活用で品質の高いニラ生産を行っている。更に、株は 3 年更新を基本とし、新植時には大量の堆肥を投入して、早期生育の促進と収穫量の安定確保および品質の維持向上を図っている。

肥料は、全量を有機質肥料に切り替え化学肥料の使用を大幅に削減し、圃場表面は堆肥で全面を被覆する「堆肥マルチ」を行い、除草剤等の化学農薬を大幅に低減した栽培を行っている。

更に、日常の管理作業の徹底により圃場内外の環境整備にも配慮しながら、消費者ニーズに対応した環境負荷の少ない農業生産を実践している。

②家畜排せつ物、稲わら、食品残さ、農業用廃ビニール等のリサイクル利用の実践と工夫

特に、福寿野地区ではモミガラと稲わらが無償で地区内の酪農家3戸に供給し、その酪農家で製造された良質の堆肥を運搬費のみの低価格で供給を受けニラ畑に還元しており、同一集落内での有機性資源の循環型農業を展開している。

また、このような堆肥を活用した土づくりと雑草抑制を基本技術としながら、農薬と化学肥料の低減化を図り、会員25名全員がエコファーマーの認定を受けるとともに、うち8人が特別栽培の認証も取得している。

③温室ガスの排出の抑制、オゾン層破壊物質である臭化メチル削減等を含む先進的な環境保全型の農法の実践と工夫

④持続的な環境保全型農業の実践と経営確立

組合で利用する堆肥は、集落内の酪農家が牛ふんとモミガラ、それにきのこの廃オガを混合し、約半年間発酵させて完熟させた堆肥である。

組合ではこの良質堆肥を年間約500t、ニラ畑の土づくりのために還元利用し、連作障害の回避とニラの品質向上を図っている

4.周辺等への影響力・普及力

①創造性・地域的な影響力

ニラ生産は、収穫後の選別、計量、結束、包装等の出荷調整作業が労働時間の大半を占めるが、これらの作業は高齢者でも可能な軽作業であるため、各組合員の労働力構成は65歳以上の高齢者が主役となっている。また数名の組合員は家族労働力だけでは不足するため、集落内の他の高齢者も雇用しており、これらも含めると労働力の約3/4を65才以上の高齢者で占められ、産地の大きな役割を担っている。

このことは、高齢者にとっては生涯現役を続けられる就労の場が確保され、自分たちも農業経営を支えているという自信にもつながっている。

② 消費者との交流、食農教育・環境教育への参画を通じた地域の活性化と地域社会発展への貢献

組合員の数名は、町内の常設産直施設「産直まんさく」の運営委員にもなっており、組合が生産したニラをこの産直施設に常時出荷するとともに、町内の学校給食の食材としても供給するなど、地産地消活動にも積極的に参加している。

③ 地域の農業資源保全と活性化

5.その他特記事項

①生産技術の統一と品質管理の徹底

定期的な圃場巡回や栽培講習会を開催し栽培技術の統一化を図るとともに、生産工程全般について組合員同士による相互チェックを実施し、品質向上に努めている。また、平成16年からは、個々の出荷袋にエコマークと栽培履歴等が記憶されたQRコードを印字し、インターネット上で積極的に情報公開している。

②大手量販店と提携した販売戦略

平成 15 年には生協への契約出荷を開始、平成 16 年からは大手量販店との契約により値決めによる定量出荷販売を展開しており、販売店・消費者から好評を得ている。

6.取組の成果と展望

舟形町におけるニラ生産は、水稻に次ぐ重要な複合部門として、確実に所得が安定確保できる作物として定着し、また同時に、高齢者の働く場所が集落内に確保され、高齢者自らが収入を得てはつらつと暮らせる手段としても評価されている。

部会ではニラ苗の無償配布、ニラ団地造成や作付け普及などの活動により、平成 19 年には新たに 3 集落（堀内、富田、太折）に拡大され、結果として、参加農家も 10 名、面積も 1 ヘクタールに拡大される見込みであり、更にシルバー人材の活用も検討されている。

今後、定年帰農者や高齢者の増加が見込まれ、これらの受け皿としてもニラ生産における仲間を募り、組織の輪を広げながら、地域全体が活気付く産地づくりを目指している。

また、消費者の環境問題や食に対する安心・安全ニーズの高まりに対応し、生産工程の情報提供を充実させるとともに、環境に配慮した栽培技術の向上と生産の拡大を図り、「こだわりニラ 1 億円産地」の実現を目指している。